モアプレス
MORE PRESS

●モアコスメティックス ☎0120-540-640
HP http://www.morecosmetics.co.jp
E-mail info@morecosmetics.co.jp

より強く、より美しい肌へ
Badens
モアプレス／バーデンス通信
2021 夏号

夏の肌は落とし穴だらけ

ドライスキン、手抜きの紫外線対策……正しい化粧品選びで肌・髪をいたわりましょう

夏の肌対策というと真っ先にうかぶのは紫外線対策です。でも間違ったUVケアアイテム選びや、夏は肌がうるおっていると勘違いしたり、かえって肌を傷めてしまうことがあります。夏のスキンケアの落とし穴についてお教えします。

肌の乾燥を進めるバリア機能の低下

「カサカサだった肌がしっとりして、夏はお肌の調子がいいからうれしい」と思っていませんか。「夏の肌は落とし穴だらけ」というモアコスメティックスの亀田宗一社長に、落とし穴からの脱出法をお聞きしました。

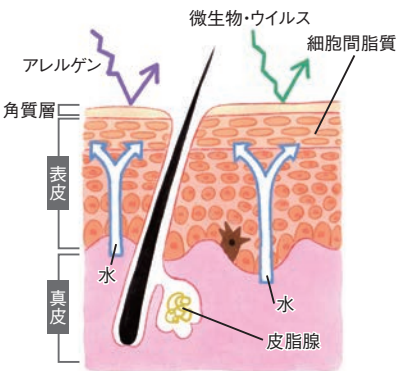
――ますます高温多湿の夏に変わってきているので、ローションだけですませてしまう人もふえています。

「気温の上昇に伴って、肌表面の温度も上がりますから、汗や皮脂でうるおっているだけなのに、肌がうるおっていると勘違いしがちです。そのまま手抜きでお手入れを続けていては、秋になったときに、肌年齢が急に上がってしまいます。それは、お手入れ不足によって、肌内部の乾燥が急激に進んでしまうからです。つまり、肌内部がスカスカしたドライスキン状態にもかかわらず、放っておいたことで、ドライスキンをますます悪化させてしまうのです」

――ドライスキンの原因はなんですか？

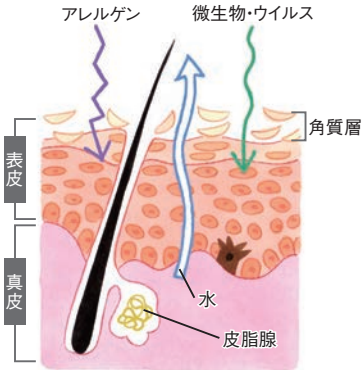
「市販の硫酸系シャンプーを使用してバリア機能が低下していることが原因です。ラウレス-3酢酸アミノ酸を使用してバリア機能が構築されている正常な肌は、肌のうるおいを護る皮脂膜、角層のNMF（天然保湿因子）、細胞間脂質（セラミド）の働きによって、肌内部の水分をためておくことができます。

一方、紫外線や乾燥、ストレスなどもバリア機能を低下させますが、いちばんは、刺激のある硫酸系の洗浄剤を使ったシャンプーや刺激のある洗顔剤で、肌細胞を殺してしまうことが大きな原因です。バリア機能を支えているもっとも重要な成分が皮膚内のセラミドです。これが角質層の上ほど多く分布しているので刺激の強い洗浄剤の影響を受けてしまうのです」



ラウレス-3酢酸アミノ酸を使用してバリア機能が構築されている正常肌

角質細胞の中のNMF（天然保湿因子）が水分を抱え込み、細胞間脂質（セラミド）が角質細胞を取り囲み、その上を皮脂膜が角質層表面を覆ってバリアを構築して、水分の蒸発を防いでいます。



市販の硫酸系シャンプーを使用してバリア機能が低下したドライスキン

角質層からセラミドが減り、バリア機能が低下してしまうと、肌内部の水分がどんどん蒸発してしまいます。そればかりか、アレルゲンや微生物・ウイルスも肌内部に入り込んでしまいます。

100%紫外線散乱剤はバーデンスだけ

――肌にやさしい「洗うもの」を選んで、きちんと保湿ケアをするということですね。つづいてお聞きしたいのが、夏には手放せない「日焼け止め」の選び方です。

「私は日焼け止めを選ぶのではなく、その日焼け止めにどんな紫外線防御剤が使われているかを確認することが大事だと言い続けてきました。モアコスメティックスは、刺激のない『紫外線散乱剤』だけを使い続けています。ほかのメーカーも安全な『紫外線散乱剤』を使いたいのですが、刺激があることを知っていながら『紫外線吸収剤』をやめるわけにはいかないのです。

CMでは『肌にやさしい散乱剤（反射剤）を使っています』と言いながら、吸収剤もいっしょに使っているのです」

――散乱剤だけでは紫外線防御指数を上げることができないからですか？

「それもありますが、各社、安価な洗顔フォームを販売しているからです。石けん成分の入った洗顔フォームで散乱剤入りの日焼け止めを落とすと、散乱剤である酸化チタンや酸化亜鉛と石けんが反応して石けんカスができて白くなってしまいます。洗顔フォームの販売をやめるわけにはいきませんから散乱剤は使えないのです。

モアコスメティックスは、『顔に塗ったものはクレンジングで落としてフォームで洗いましょう』『体に塗った場合は、バーデンスのシャンプーで洗ってください』とお願いしています。本当に肌のことを考えるなら、肌の乾燥を進めたり、肌刺激となる吸収剤を使うことは考えられません。100%散乱剤を使ったUVケア製品はバーデンスだけです」

――紫外線防御指数だけでなく、紫外線防御剤が何かを確認することがいちばん大事なことだとわかりました。

落とし穴1 夏のお肌はしっとりうるおっているから、ローションだけでいい

汗と皮脂でうるおっているだけ。ドライスキンが進行中!

夏の間、お肌の表面がしっとりしているのに、角質層の水分やセラミドが不足してドライスキンに気がつかないことが夏のスキンケアの大きな落とし穴です。洗うものの刺激も問題ですが、肌がうるおっていると錯覚して、必要以上に洗顔して皮脂を洗い落として乾燥を進めたり、保湿ケアをやめてしまうことがいちばんの原因です。

また、エアコンの効いた室内は湿度が低く、いっそう肌の水分が奪われます。エアコンもお肌の大敵です。

おすすめケアアイテム

保湿美容液とセラミドクリームで朝晩しっかりうるおいチャージ

そんな夏こそ、セラミドポリマー、レシチンポリマー配合のバーデンス セルシリーズ『セルパーフェクトリクイド』や『セルパーフェクトクリーム』でしっかりとうるおいを補給してください。セラミドネットワークを形成するセラミドポリマーの働きでバリア機能が復活し、肌にハリが生まれます。また、高い保水力をもつレシチンポリマーが、肌にふたをしてうるおいを逃しません。

温度・湿度が下がったとき、いつもの秋と違う肌に生まれ変わっているはずです。

バーデンス セルパーフェクトリクイド
〈保湿用美容液〉
30ml　7,000円(税込7,700円)

バーデンス セルパーフェクトクリーム
〈保湿用クリーム〉
30g　12,000円(税込13,200円)

落とし穴2 家の中にいることが多いから、日焼け止めは使わない!

生活紫外線は窓ガラスを透過して肌に届きます。

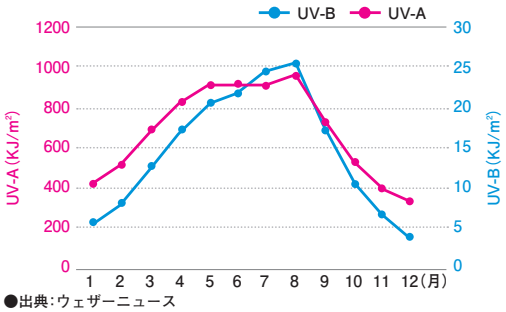
長引くコロナ禍で外出が減ったり、リモートワークになって、室内で長く過ごす人がふえています。「日焼け止めは外出するときだけ」と考えていたら、それは大間違いです。

紫外線には、レジャー紫外線と呼ばれるUVBと生活紫外線といわれるUVAがあります。海や山で一度赤くなって黒く焼けるのがUVB。一方、UVAは窓ガラスを透過して肌に降り注いでいます。

このUVAが厄介なのは、真皮の深部にまで届いて、肌の弾力を保つコラーゲンやエラスチンなどを変性させて、シワやたるみの原因になってしまうことです。

また、降り注ぐ量ですが、9月になると、UVA、UVBともに大幅に減少するのですが、UVAは冬になっても夏の半分くらいしか減りません。窓を透過したUVAには1年を通して注意が必要というわけです。

紫外線量の月別変化



●出典:ウェザーニュース

落とし穴3 日焼け止めは、マスクから出ているところだけに塗っていればOK!

紫外線は、不織布マスクも布マスクも透過します。

「マスクは息苦しいけど、日焼けを防止してくれる」と思っている人も多いようです。さらに、「マスクによる日焼けムラ」ができるから、マスクから出ている部分だけ日焼け止めを塗ればいいという人もいます。

たしかに、白いマスクには紫外線を通さない効果がありますが、素材が不織布だろうがウレタンだろうが、紫外線を100%カットするものはありません。だから、マスクから出ているところだけ塗ればいいというのは、今すぐやめましょう。

では、どうするのがいいかというと、マスクをしている部分もマスクから出ている部分も均一にしっかりと日焼け止めを塗ってください。

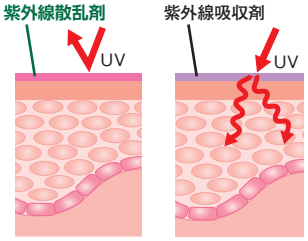
落とし穴4 紫外線防止効果の高い日焼け止めを選ぶのが一番!

使われている紫外線防御剤を確認しましょう。

日焼け止めを選ぶときに、確認するのがSPF値とPA値。SPFはUVBを、PAはUVAを防御する効果を表す数値です。国内最高値はSPF50+/PA++++で、各ブランドから、この数値の日焼け止めが発売されています。日常使いでも、長時間塗り直さなくてもいいからと、UVカット指数の高いものを選びがちです。しかし、ここで大事なのは、1ページでもお伝えした使われている「紫外線防御剤」。「吸収剤」は肌の中に一度入ってエネルギーに変換するため、肌が乾燥したり、肌の弱い人には刺激になります。高いUV指数を出すには吸収剤を使うしかなく、のびがよく色がつかないというメリットもあります。

一方「散乱剤」に刺激がないのは各メーカーともわかっていますが、多く配合すると白くなるし、散乱剤だけでは高い防御指数は得られないという化粧品業界の定説があるのです。

●紫外線防御メカニズム



紫外線を吸収して熱エネルギーに変換することで防ぐ「吸収剤」は刺激が強いのに比べ、紫外線を反射させて防ぐ「散乱剤」は、皮膚刺激がありません。

おすすめケアアイテム

紫外線散乱剤だけでつくられた低刺激・高UVカット指数のサンシェード

『バーデンス サンシェード』は紫外線散乱剤100%でつくられた日焼け止めです。散乱剤はUVBに対する防御効果が弱いという面がありますが、バーデンスは散乱剤である酸化チタンと酸化亜鉛を超微粒子化し、さらに特殊分散技術を用いて高濃度で配合することで問題をクリアしました。しかも国内最高値のSPF50+/PA++++を実現。

使用時のべとつきや白浮きもなく、年中使い続けても肌への負担はありません。

バーデンス サンシェード
(日焼け止めローション)
SPF50+　PA++++
25ml　3,500円(税込3,850円)

Column 顔や体に塗ったサンシェードは、クレンジングやシャンプーで落としましょう

『バーデンス サンシェード』はウォータープルーフ商品です。しかも、酸化チタンと酸化亜鉛という安全な散乱剤のみでつくられています。使用後、お顔はクレンジングで落として洗顔フォームで洗い流してください。体に塗った場合は、石けんで洗うと石けんカスができて肌に白く残ってしまいますから、ラウレス3-酢酸アミノ酸入りのシャンプーで落としてください。

Column SDGsの「目標14 海の豊かさを守ろう」を達成している日焼け止めです!

今年から、ハワイでは紫外線吸収剤「オキシベンゾン」と「オクチノキサート」を含む日焼け止めの販売が禁止されました。サンゴ礁へのダメージが原因のひとつと言われています。海の環境を守る日焼け止めとして推奨されているのが、紫外線散乱剤使用のもの。『バーデンス サンシェード』は、海を汚さず、海の豊かさを守るというSDGsの目標まで達成しています。

落とし穴5 早くシミを薄くしたいから、美白アイテムはシミ部分に塗り込んでいる

全体にやさしくなじませるのが正解! 化粧品にできるのは予防です。

肌老化の8割は紫外線ともいわれ、紫外線を浴び続けたことでシミ・くすみが年々気になるという人が多くいます。そんな女性たちが熱い視線を送っているのが各メーカーが競って市場に送り出す美白アイテム。しかし、配合されている美白成分に注意しなければいけません。

「ハイドロキノン」は漂白剤ですし、「ロドデノール」は肌に白斑ができた成分です。これらでトラブルになったとしても、しばらく使わなければ肌は自然と元の肌に落ち着きます。

まずは肌にやさしい安全な美白アイテム選びが第一です。また、使用するときは決してシミの部分に塗り込むのはNGです。さらに刺激を与えることになりますから、ますますシミを濃くしてしまうことになりかねません。肌全体にやさしくなじませましょう。

「肌に刺激を与えてシミやくすみをつくらせない、化粧品は予防コスメでなければいけない」という考え方のもと、つくり上げたのが『バーデンス 薬用ホワイトローション』です。

おすすめケアアイテム

肌理論に基づき独自製法でつくられた高機能ホワイトローション

バーデンスが選んだ美白成分はビタミンC。色素沈着・メラニン合成を抑制、黒色メラニンを淡色化する作用もあります。難点は、熱や酸に弱くすぐに分解されてしまうこと。バーデンスは「高圧レシチンナノミセル化」という独自処方により3年間もビタミンCが安定しています。肌の奥深くからじっくり肌に透明感を与えてくれます。

バーデンス
薬用ホワイトローション
30ml　7,000円(税込7,700円)
〈医薬部外品〉

落とし穴 6
髪の毛も日焼けしたくないから、日焼け止めスプレーを使ってる

アドバイス

髪用の日焼け止めは認められていません。

紫外線対策として、顔には日焼け止めを塗り、UVカットウエアを選んだら、髪にも日焼け止めスプレーをかけたくなりますね。でも、「日焼け止め商品」としてうたえるのは肌だけ。

スプレー式の日焼け止め剤で、〝毛髪用〟とされ、「紫外線ダメージから肌と髪を守り……」と書かれて販売されているものには注意が必要です。SPF値やPA値は、生きた細胞である肌への刺激で評価されているわけですから、死んだ細胞である髪の毛での評価は難しいのです。

また、エアゾール製品は噴射するとすぐに気化して測定できません。毛髪用スプレーでUV値が記載されているものを信用してはいけないのです。

おすすめケアアイテム

髪の毛を保護&ダメージを補修するヘアケアで紫外線による乾燥から護りましょう

髪は紫外線をカットするのではなく、紫外線による乾燥から護ること。髪の毛を熱、乾燥、摩擦からプロテクトする『リペアエッセンス』と、ブローの前に熱と乾燥をブロックする『ヘアプロテクター』のダブル使いで健康毛をキープしましょう。

バーデンス リペアエッセンス
90ml　2,800円(税込3,080円)

バーデンス ヘアプロテクター
200ml　1,800円(税込1,980円)

落とし穴 7
頭皮も汗をかくからシャンプー回数がふえるけど、洗い流すものだから何でもいい

アドバイス

髪の毛と頭皮はすぐに洗えないからシャンプーは洗浄効果が高い。

高温・多湿の夏場に洗髪の回数もふえてしまいますね。刺激が多い洗うものの代表はシャンプーです。というのも、頭皮は毛穴が多く、汗や皮脂の分泌量は肌よりも多いにもかかわらず、すぐに洗うことができません。そのため、シャンプーはスキンケア製品の洗うものより洗浄効果を高くしているのです。その洗浄剤が、刺激の強い硫酸系やアミノ酸系洗浄剤入りのシャンプーだとしたら……。しかも、洗い流すときには、必ずお肌にも触れることを考えたらシャンプー選びの大切さがわかります。

おすすめケアアイテム

髪に頭皮にやさしい洗浄剤入りで夏に最適な清涼感あるメントンシャンプー

髪に肌にやさしい洗浄剤を使用しているのはバーデンスだけ。その洗浄剤「ラウレス3-酢酸アミノ酸」(特許第5057337号)は、低刺激洗浄剤として特許を取得しています。そして、シャンプー回数がふえる夏におすすめしたいのがハッカの香りの「メントン スキャルプシャンプー」と「メントン スキャルプトリートメント」。清涼感、爽快感はもう手放せなくなるでしょう。

バーデンスメントン
スキャルプシャンプー

250mlボトル	2,000円(税込2,200円)
500mlボトル	3,500円(税込3,850円)
400ml詰め替え用	2,500円(税込2,750円)
フィルムサンプル	

バーデンスメントン
スキャルプトリートメント

180gチューブ	1,800円(税込1,980円)
500gボトル	4,000円(税込4,400円)
400g詰め替え用	2,900円(税込3,190円)
フィルムサンプル	

落とし穴 8
弱酸性のボディソープを使っているから安心

アドバイス

頭皮も体も同じ。洗浄成分を見て選びましょう。

「肌を洗うなら弱酸性が安心」と思って使用している人も多いでしょう。でも、弱酸性の石けんや洗浄剤は「合成界面活性剤」を配合しないとつくることができません。それが「ラウレス硫酸」だったりすると、洗浄力は高くなりますが、肌にも刺激になってしまいます。

おすすめケアアイテム

特許取得のお酢系洗浄剤+石けん成分のボディシャンプー

おすすめできるのは、頭皮にも体にもやさしい洗浄剤「ラウレス3-酢酸アミノ酸」(特許第5057337号)を配合したものだけ。『バーデンス ボディシャンプー』は、サッパリとした洗い上がりにするため石けん成分を加えています。汚れはきちんと落とし、必要な皮脂は奪わずにしっとりお肌が続きます。

バーデンス ボディシャンプー

500mlボトル	3,500円(税込3,850円)
400ml詰め替え用	2,500円(税込2,750円)